

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18004

建築物名称	医療法人社団三成会 (仮称)新百合ヶ丘総合病院新棟建設工事
建築主	医療法人社団 三成会 理事長 渡邊 一夫
建築物の所在地	川崎市麻生区古沢字都古255番7 他
設計者氏名、建築士事務所名	桑木 建次 大和リース株式会社東京本店 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	6,983.11m ²
用途	自動車車庫
構造	鉄骨造
階数	地上6階
工事完了年月	令和元年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

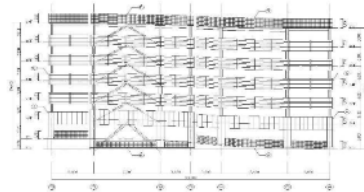
CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人社団三成会(仮称)新百合ヶ丘総合病院新棟建設工事	階数	地上6F
建設地	川崎市麻生区古沢字都古255番7 他	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 竣工	評価の実施日	2018年4月10日
敷地面積	61,394 m ²	作成者	新妻 大輔
建築面積	1,160 m ²	確認日	2018年4月16日
延床面積	6,983 m ²	確認者	桑木 建次



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している 景観条例に適合させ、周囲に合わせた色調としている 空調設備、燃焼設備の設置無し	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/1.3	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している 空調設備、燃焼設備の設置無し	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	発泡剤の使用なし	2.7/4.7	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/1.3	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	給水管(SUS):C、消火管(SGP):Cを採用	0.4/0.8	2.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.0/4.0	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.6	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	1.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している 空調設備、燃焼設備の設置無し	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/1.3	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		0.0/0.0	-
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質											2.3
Q1 室内環境											-
1 音環境											-
1.1 室内騒音レベル											-
1.2 遮音											-
1 開口部遮音性能											-
2 界壁遮音性能											-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											-
1.3 吸音											-
2 温熱環境											-
2.1 室温制御											-
1 室温											-
2 外皮性能											W
3 ゾーン別制御性											-
2.2 湿度制御											-
2.3 空調方式											-
3 光・視環境											-
3.1 昼光利用											-
1 昼光率											-
2 方位別開口											-
3 昼光利用設備											W
3.2 グレア対策											-
1 昼光制御											W
3.3 照度											-
3.4 照明制御											-
4 空気質環境											-
4.1 発生源対策											-
1 化学汚染物質											-
4.2 換気											-
1 換気量											-
2 自然換気性能											-
3 取り入れ外気への配慮											-
4.3 運用管理											-
1 CO ₂ の監視											-
2 喫煙の制御											-

Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	2.7		
1 機能性				-	-		-	-		
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-	-		
1	広さ・収納性			-	-		-	-		
2	高度情報通信設備対応			-	-		-	-		
3	バリアフリー計画			-	-		-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-		-	-		
1	広さ感・景観			-	-		-	-		
2	リフレッシュスペース			-	-		-	-		
3	内装計画			-	-		-	-		
1.3 維持管理				-	-		-	-		
1	維持管理に配慮した設計			-	-		-	-		
2	維持管理用機能の確保			-	-		-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.50		-	2.8		
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	-		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.7	0.30		-	-		
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.22		-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		1.0	0.22		-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.11		-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		-	-		-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		4.0	0.22	給水管(SUS):C、消火管(SGP):Cを採用	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.22		-	-		
2.4 信頼性				2.4	0.20		-	-		
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	-		
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20		-	-		
3	電気設備			3.0	0.20		-	-		
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	-		
5	通信・情報設備			2.0	0.20		-	-		
3 対応性・更新性				2.7	0.50		-	2.7		
3.1 空間のゆとり				2.2	0.30		-	-		
1	階高のゆとり			1.0	0.60	壁長さ比率=0.168	-	-		
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40		-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30		-	-		
3.3 設備の更新性				3.0	0.40		-	-		
1	空調配管の更新性			-	-		-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	0.25		-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	0.13		-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	0.13		-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	0.25		-	-		
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.25		-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	2.1		
1 生物環境の保全と創出				G	W	H	1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮							2.0	0.30	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上							2.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H	2.0	0.50	-	-

LR 建築物の環境負荷低減性									2.9
LR1 エネルギー									
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H						
2 自然エネルギー利用	W		H						
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEQ][BEIm] =	-	LED照明器具採用			
4 効率的運用									
集合住宅以外の評価									
4.1 モニタリング	W		H						
4.2 運用管理体制	W		H						
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング	W		H						
4.2 運用管理体制	W		H						
LR2 資源・マテリアル									2.9
1 水資源保護	W		R						
1.1 節水									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									
1 雨水利用システム導入の有無									
2 雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減									
2.1 材料使用量の削減	W		R						
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R						
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R						
3 汚染物質含有材料の使用回避									
3.1 有害物質を含まない材料の使用									
3.2 フロン・ハロンの回避									
1 消火剤	W								
2 発泡剤(断熱材等)	W					発泡剤の使用なし			
3 冷媒	W								
LR3 敷地外環境									2.9
1 地球温暖化への配慮	W								
2 地域環境への配慮									
2.1 大気汚染防止						燃焼設備無し			
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W							
2.3 地域インフラへの負荷抑制									
1 雨水排水負荷低減									
2 汚水処理負荷抑制									
3 交通負荷抑制									
4 廃棄物処理負荷抑制									
3 周辺環境への配慮									
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									
1 騒音									
2 振動									
3 悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									
1 風害の抑制									
2 砂塵の抑制									
3 日照障害の抑制									
3.3 光害の抑制									
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						光害対策ガイドラインの一部を満たす、広告物照明設置無し			
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									